

キャラクター名  
ヴェロニカ岩清水

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ソラリス	ワークス	マフィア	カヴァー	オカマバーのママ
オプション		年齢	25	性別	オカマ(工事済)
覚醒	死	衝動	妄想	初期侵食率	32%
出自	貧乏	経験	大恋愛	邂逅	借り

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	0	1			1	行動値	8
感覚	0	1	2			3	(非装備時)	8
精神	2	0	0			2	戦闘移動	13
社会	6	0	0			6	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1	2	RC			交渉	1	3
回避			知覚			意志			調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報:裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
拳銃	射撃	3r+3	0	3		命中-1。ブランドはFN ブローニングM1910。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
レザージャケット	4	2	0	0	

所持品	
コネ:情報屋	
携帯電話	
ウェポンケース(拳銃)	
ドレス(フォーマル)	
アクセサリ	
コネ:要人への貸し	

合計装甲: 2    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
昔付き合っていた男	P 執着	N 偏愛		
霧谷 雄吾	P 尽力	N 嫌気		
ちんこ	P 遺志	N 嫌悪		
終夜 柊	P 庇護	N 偏愛		
春日 恭二	P 慕情	N 偏愛		
蒼牙	P 信頼	N 偏愛		
ブラッド=イーター	P 友情	N 嫌悪		

最大財産P: 14    残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:ソラリス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv								
抗いがたき言葉	2	2	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果: 射撃攻撃が命中した場合、そのシーンの間対象が行うあらゆる判定のダイスを-Lv個する。								
絶対の恐怖	1	3	メジャー/リアクション	視界	-	対決	-	
効果: 攻撃力:+Lvの射撃攻撃を行う。装甲値無視。								
彫像の声	1	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果: 射撃攻撃が命中した場合、そのシーンの間対象の行動値を-[Lv×2]する。マイナーアクションで解除可能。								
錯覚の香り	1	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: このエフェクトを組み合わせた判定のダイスを+Lv個する								
快樂の香気	1	-	-	視界	シーン	自動	-	
効果: フェロモン								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

恋と愛に生きるオカマ。  
祖父は元KGB。母はロシアマフィアくずれの詐欺師。父はそこそこ大きい会社の社長。  
母はヴェロニカが生まれてすぐに行方不明になり、父はそのショックで出家し、ヴェロニカが10歳のときにボランティア活動のため紛争地域に向かい死んでいる。  
以降叔父の家で育てられることになったが、叔父は特殊性癖の持ち主であり、ヴェロニカ自身にもそれを強要したようである。  
そのせいか性知識に関しては早熟であった。  
18歳のとき、叔父とのプレイ中に事故でちんこがけ、そのときにオーヴァードとして覚醒する。  
そのときに放たれた痺気によって叔父は意識障害を引き起こし、現在は植物状態である。

超絶美人で人を惹きつける魅力がある。  
普段はオカマバーのママとして人生にくたびれた男たちを癒している。  
霧谷雄吾とは数年前に出会っており、かつて恋人だった男を探すためにUGNに協力している。  
かなり借金を背負っているため、オカマバーの仕事の傍らマフィアの幹部に体を売る毎日である。  
拳銃の使い方は元恋人から教わった。

もげたちんこはよく製にして自室に飾っており、それを見る度に新しい自分(両方の意味で)として人生を謳歌できるようになったのだと実感している。  
反面、ちんこもげてもちんこがあった事実は変わらないという本人にとってはある種の嫌悪感を抱かせるものでもある。